



信夫第二小学校 学校便り

きらら

### 〈教育目標〉

「めあてを持ち、やりぬく子ども」の育成

- よく考える子ども（学習：学力）
- 思いやりのある子ども（生活：人間力）
- 体をきたえる子ども（健康：体力）

No.7 令和3年6月25日（金）発行

## 星に願いを「七夕ファイナル」

### 「最後の一年を最高の一年に！」

この合い言葉で、信夫第二小学校としての最後の行事を「〇〇ファイナル」として、盛り上げる取組を行っています。本校職員のアイディアです。

第一弾は「七夕ファイナル」です。児童会担当の伊藤先生を中心に行っていますが、チーム信夫二小のスタッフは、すべてを人任せにしません。放送委員会の小林先生と放送委員会の子どもたちが、実施の呼びかけや七夕の話放送で行って盛り上げてくれたり、1年生担任の根本先生が子どもたちと折り紙で七夕飾りを作ってくれたり・・・。支援員の宮尾先生は、忙しい中、隙間時間を見つけては、全校生・全職員分のきらら短冊を一人2枚分ずつ準備してくれました。コロナのことや家族のことなど、みんなのことばかりを書きそうだから、自分のことも書けるようにという配慮で2枚分なのです。その心遣いが本当に素晴らしいです。一人が動き出すと、次から次へ子どもたちも先生方も動き出す！”前向きに進もうとする輪”が広がり出す！この姿を校長として、とても誇りに思っています。

竹を搬入してから、まだ3日目ですが、1階から3階までの階段の吹き抜け部分は、季節感漂う最高の癒やし空間ができました。友達の願い事を見ては、「叶うといいね、がんばれ」などと、声をかけ合っている姿も、心温まる姿です。



### 「七夕ファイナル」のねらい

- 信夫第二小学校で迎える最後の七夕行事であることを自覚し、学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 七夕をよりよく生きるための願いをもつ特別な機会とし、自らの願いを意識することで自己肯定感の芽生えにつなげる。
- 七夕行事は、周囲の友達と互いの願いを認め合える機会ともなることから、互いの自己肯定感を高め合いながら居心地のよい人間関係づくりを行えるようにする。

### 御礼



- 大日向の渡辺幸一さん（5年星矢さん）から、閉校記念事業へのご寄付をいただきました。ありがとうございました。
- 七夕ファイナル用の竹を、外面の國井保子さんにいただきました。ありがとうございます。

ありがとうございます

